

平成26年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT26052

自分を知る,人とつながる～アートコミュニケーションがつくる  
コミュニティの輪



開催日 : 2014年8月8日(金)  
10:00～16:30  
実施機関 : 千葉大学  
(実施場所) (教育学部5号館)  
実施代表者 : 加藤 修  
(所属・職名) (教育学部・教授)  
受講生 : 小学生 4名  
中学生 4名  
関連 URL :

【実施内容】

<プログラム内容>

実施代表者は、美術活動を通して自己理解するとともに他者理解をも促進する美術創作活動「アートボディーコミュニケーション」を開発してきました。さらに、このアートボディーコミュニケーションに個人と個人をつなぎ、1つのコミュニティを作り出す機能を持たせたワークショップを開発し、大学の一般教養科目「アートをつくる」として学生のコミュニケーション能力、課題解決能力を育成する授業を展開してきている。この活動をさらに拡張させ、現在は病院において病児患者とのコミュニケーション手法の開発、街おこしプロジェクトの推進を行っています。ここではこれらの成果から、開発した手法を、より良い人間関係構築のための手段として学んでもらいました。これによりグローバル化の中にあっても自分をきちんと表現し、仲間の輪を作り、力強く生きてゆく能力の獲得を目指しました。

今回は、午前はアイスブレイキングとして、色彩カードを用い色彩と感情の関係性にふれ、個々の参加者の共通性と個人差を確認します。各自が色彩で感情表現をすると同時に他者の作品から感情を理解する体験してもらいました。また、制作するという作業と同時に、「発表」という形でそれを言葉に直し思考を整理すること、人前で話す発表経験そのものも大切に活動しました。

午後は講義からはじめ、さまざまな表現活動が社会の中でどういった役割を果たしているのかを、スライドを交えて紹介し、アートがさまざまな能力と可能性を持っていることに気がついてもらいました。その後はワークシートに従い、各自にとっての「住みたい国」を想定し、感情や思いを色彩に重ねて、その国の旗を制作しました。旗は完成後竿を通し、屋外の草地に出て各自思い思いにそれを立て、全員の前で発表してもらいました。参加者の一人ひとりが普段から考えている日本の将来について、自分の考えを少し整理できたかたちで話すことができました。各自が考えを想起し、思考を拡張し整理する際に、手を動かしながら試行・思考することの有効性を体験してもらいました。

<当日スケジュール>

○午前 受付9:30～10:00 (西千葉キャンパス教育学部5号館1階) / 開校式10:00～10:20 / 参加者自己紹介10:20～11:20 (2色で自分を表すネームカードをつくり、その説明をしながら自己紹介) / アイスブレイキング11:30～12:10 (色彩カードを用いたワークショップ「記憶の色彩」「心の色彩」)

○午後 講義「美術とコミュニケーション」13:10～14:10 (文化庁芸術家在外派遣事業での2001.9.11の体験、オリンピック前の中国の変革、各種アートプロジェクト・ワークショップの実施記録の紹介) / 「旗をつくる --- 住みたい国を考える」14:20～16:10 / 修了式16:10～16:30 (「未来の博士号授与」、アンケート記入)

## <実施の様子>

参加者自己紹介「自分を表す2色のネームカードを使って」



アイスブレイキング ワークショップ「記憶の色彩」

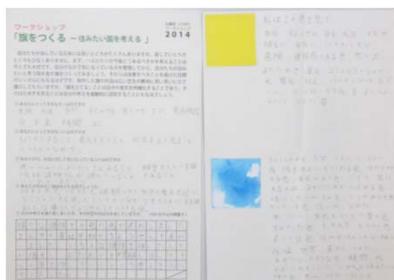
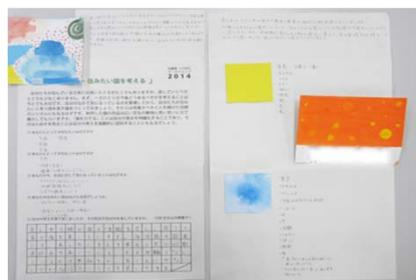


黄色いカードと青いカードを使って、それぞれから思い出した記憶を発表してもらいます。色彩によって記憶が鮮やかに蘇ることの確認です。

ワークショップ「旗をつくる--住みたい国を考える」



完成作品を草地に立て全員発表



ワークシートの記述例

## <安全配慮>

危険性のある工作機器は使用しなかったが、大学生スタッフを十分に配置し、参加児童生徒に対する細やかな制作支援とあわせて安全環境の確保に務めた。

<今後の発展性・課題>

本プログラムは、参加した個々人が自分と向き合うことからはじめ、他者理解をしながらコミュニケーションを広げていく内容なので、家族同伴者という年齢差のある方の積極的参加も参加児童生徒にはプラスに働く。それは世代等による価値観の違いなどを、互いの意見交換を通して児童生徒がリアルに感じ取ることができるからである。親子間の問題意識・価値観の違い、同世代の父母たちがどういった考えを持っているかについて確認しあえる場でもある。発展的課題としては、積極的に親子での参加者を募り、効果的に意見交換する時間を確保することが挙げられる。

<広報活動>

大学ホームページにおける宣伝等の他、千葉市教育委員会と協働している科学実験プログラム「千葉市未来の科学者育成プログラム」の受講生にチラシを配布した。

<事務局との協力体制>

千葉大学教育学部サイエンススタジオCHIBAのスタッフを中心に密な連絡による協力体制を構築した。また、教育学部経営係が委託費を管理し、学術国際部研究推進課が日本学術振興会との連絡調整を行い、企画総務部渉外企画課がホームページ等で開催を周知した。

【実施分担者】

なし

【実施協力者】 8名

【事務担当者】

吉田 毅郎

学術国際部研究推進課・主任